

共生社会 安心して自分らしく暮らせるまち

無会派(国分寺・生活者ネットワーク)
岩永 康代



■多文化共生社会への対応と外国にルーツのある子どもの支援 ■岩永 市内でも外国人人口が増えている。文科省が昨年外国人の子どもの就学状況調査を行った。市の現状は？ 答 94人中市立学校への就学が53人。41人が私立・国公立・外国人学校に就学、出国その他 岩永 子どもの学ぶ権利を保障する点からも、全員の把握と転入時の就学情報提供の徹底を 答 マニュアルに位置づけて丁寧に対応する 岩永 外国人市民の実態を把握し、多文化共生施策の推進を。オリパラやベトナムとの交流等、国際協会の事務局負担も増えている。運営継続のための支援を要望する。 ■障がい者施策 ■岩永 24時間体制の相談と緊急

時の受入対応について、地域生活支援拠点の今後の取り組みは？ 答 夜間を含む相談体制の充実には障がいのある方の地域生活を支える上で重要と認識し、相談の充実や緊急対応に備え訪問面談等を行ってきた。基幹相談支援センターの機能を更に高め、新たな拠点機能の担い手としてサービス事業所間のネットワーク化を進める。 ■成年後見制度 ■岩永 成年後見制度利用促進計画策定にあたり、関係機関からのヒアリングやNPO等と連携したニーズ把握が必要。費用助成制度や法人後見、総合的な権利擁護機関の設置等、地域の実態に即した施策の位置付けを。 答 地域のNPOとも連携しながら進めていく。

■特別支援教育の支援員 ■岩永 配置についての検討状況は？ 答 クラスアシスタントや介助員募集時に東京学芸大学3市連携講座との連携を進めている 岩永 インクルーシブ教育の理念に基づき学校全体で子どもを支える体制が必要。支援員の研修と保護者の声を丁寧に聞く場を求め。 ◆農業等の使用について、道路脇の草等に使用されている除草剤の成分調査と、発がん性の疑いのあるグリホサートや子どもの脳の発達への影響が指摘されるネオニコチノイド系農薬等を市有地で使わない方針・市民への啓発を求めた。

政策決定過程は市民に明らかにするべきだ！

国分寺政策市民フォーラム
及川 妙子



1. ペットボトルの戸別収集について=〇延伸になったが10月からのプラも含めた有料化はどこで決まったのか？ 答 審議会の答申後、行革本部で意見を伺い庁内調整して決定した。〇どこで決まったのかははっきりわからない不透明な進め方はよくない。
2. 児童発達支援事業について=〇市として子どもを育てていく方向性を明確にしてほしいと事業者から要望された。 答 児童発達支援ガイドラインに沿って対応していく。〇移行支援も含め可能な限り地域の保育、教育等の支援を受けられるようにしていくこととともに同世代の子どもとの仲間づくりを図ってほしい。〇民間の

事業所からは相談窓口がわかりにくいという保護者が多いと聞いたので適切に対応してほしい。
3. 児童手当について=〇現在保育料と学童クラブ費の滞納分について特別徴収しているが、普通の保育料の引き落としはできないのか？ 答 保育料は幅があるため天引きは難しい。
4. 台風19号について=〇防災推進地区など市民の協力体制を検討してほしい。〇初動が遅いので迅速な対応をしてほしい。〇全体の総括をやってほしい 答 年内に振り返りの場を実施する。〇その際は学校からの意見も聞いてほしい。
5. 障がい者の緊急時の対応について=夜間、緊急時に市役所のキャビネにある本人の情報を

確認する作業は、緊急カードなどを本人が所持することで時間短縮できるのではないかと緊急時なので迅速な対応を工夫してほしい。
6. 都知事との懇談について=冒頭、都知事から泉町の所有地の売却については昨日(10/16)方針を決定したと言っていたが、議会の議決の前に既に売却が決まっているのか？ 答 市長：10年以上前から都にお願いしてきて知事から直接返事をもらえたということ。〇都民ホール、警察病院の跡地利用(老健、警察署、ドッグラン)について市の要望が実現すること期待する。

市民に寄り添う行政を

国分寺政策市民フォーラム
はせば 豊子



◆環境に優しい取り組み 問) 有価物地域回収活動の状況は。市) 30年度団体数180団体(前年比+10団体)回収量2764トン(前年比+107トン)集団回収事業は、地域コミュニティーの強化、収集費の削減も見込まれる等、事業推進の啓発を強化する。問) 家庭廃棄物指定収集袋の提案。可燃ごみ袋は、バイオマス13%。配合の%を上げることにより、二酸化炭素(CO2)の削減になる。市) 課題整理をして、検討をしたい。問) 食品ロスの削減の推進について、生ごみたい肥化事業の取り組みは。市) 燃やせるゴミの約3割が生ごみ。昨年度、市内3か所で実施し生ごみ個人登録実績は、22トン。今年7月より本多

公民館も開始。場所の追加も検討したい。
◆高齢者福祉施策 問) 地域密着型サービスの現状は。市) 今後もニーズが高まっていくと考えられる。第8期介護保険計画の策定において利用状況の分析をし、整備方針について検討をしていく。問) 市の地域医療計画作成については。市) 医療に特化した計画ではなく、総合化した計画によって取り組みを推進している。
◆障がい者福祉施策 問) 市内13名登録のペアレント・メンター派遣事業についての取り組みは。市) 29年度から東京都が実施した事業。今後、保育園や幼稚園、教育機関などに対してもペアレント・メンターを活用しての事業の周知

を行う。問) 障がい者の就労について市の雇用の現状は。市) 市職員の障がい者雇用率は2.5%。障がい者の採用に限定した採用は実施していない。障がいのある方の雇用拡大に向けて研究をしていきたい。問) 今後の新庁舎や公共施設再配置での障がい者就労の場の確保についての考えは。市) 障がい者の方が就労できる環境について、多様な視点での可能性を模索したい。 ◆他、民俗資料館の管理と活用を老人クラブ等地域団体へ。生きがいセンターほんだの活用を要望した。

西町三丁目交差点の改良 キャッシュレス対応

自由民主党市議団
尾澤 しゅう



【西町三丁目交差点の改良工事の今後】
尾澤：これまで当該交差点の東側は地権者さんの御厚意によって一部を歩行空間として開放していただいております。交差点改良工事中であっても、安全配慮の観点から用地取得済の箇所については今後も歩行空間を確保しながら工事を行っていただくことを求めます。
答弁：地権者さんの御厚意により、これまで幅約1メートル程度の歩行空間を開放していただいております。今回はその部分も含めて用地取得を致しました。工事中もより安全に進めていくために工事の作業帯を調整して少しでも歩行者の通行空間を確保できるように努めます。

尾澤：今後の予定と工事の進行による交通規制等がいつから始まるのか教えて下さい。また、工事にあたっては、できる限り日中の交通規制が発生しないように進めて頂くことを求めます。
答弁：来年度から雨水排水やガス、NTT等のライフラインの移設工事を交差点の西側から取りかかる予定です。工事の際は、一部片側交互通行をする等の交通規制を伴う可能性がございます。工事については、事前にお知らせをして混乱を招かないよう配慮をして進めていくよう心がけてまいります。
【市のキャッシュレス決済への対応は？】
尾澤：市民の利便性の向上と職員の業務効率化

の観点から、各自治体でキャッシュレス決済に対応していく動きが始まっている。本市でも検討、導入を行っていきべきだと考える。
答弁：本年、他市では鉄道やコンビニエンス店等で電子マネーが普及したことを踏まえ、市民の利便性向上のために、少額な課税証明書の交付手数料、あるいは施設使用料に複数種類の電子マネーで決済が行えるという様な先行事例を確認しています。当市におきましても、他団体の導入状況や利用者のニーズを把握し、適切に対応できるように検討を進めてまいります。